

# 人・農地プランに基づく水田農業の 多様な担い手の育成

県北農林事務所 経営・普及部門

日上市、高萩市、北茨城市では水稲が基幹作物となっていますが、担い手の高齢化や米価の価格低迷により水田農業を支える力強い経営体の育成が求められています。県北農林事務所経営・普及部門では担い手の所得向上を目指し、関係機関と連携しながら担い手への農地の集約・集積や区画の拡大、耕作条件の改善を支援するとともに、飼料用米等の安定生産技術の確立に取り組んでいます。

## 農地中間管理事業を活用した経営体の育成

農地中間管理事業を活用したモデル経営体の経営安定を図るため、関係機関と連携しながら圃場の区画拡大や高生産性農業機械の導入支援を行いました(写真1)。北茨城市では生産性向上に必要な農業機械を導入し、2地区で9haの区画拡大を実施しました。

また、さらなる経営安定を目指して税理士や社会労務士等の専門家による法人化支援を行い、2戸の農家が法人設立を目指す方向となりました。



写真1 導入されたレーザーレベラーによる均平化作業



写真2 農研式流し込み施肥機による追肥作業

## 生産性改善による担い手の所得確保

高萩市赤浜地区は地盤が弱く、水稲の生産に支障をきたしています。生産性を改善し、担い手の所得確保を図るため、レーザーレベラーにより圃場を均平化するとともに、土壌診断や生育診断に基づいた飼料用米の栽培管理の改善を行いました。圃場の均平化により作業の効率化が図られるとともに、リン酸不足の改善や流し込み施肥による追肥により収量622kg/10aを確保することができました(写真2)。

## 飼料用米の安定生産による経営の安定

3市の主要な戦略作物である飼料用米の作付け拡大と安定生産を図るため、モデル経営体の栽培実態把握と栽培改善指導を行いました。移植時期の前進化や施肥改善に取り組んだ経営体では、平成27年度に比べ増収しました(図)。

モデル経営体の取組結果については、地域全体の収量の底上げを図るため、講習会等で情報提供し、飼料用米生産に取り組む農家へ広く周知しました。

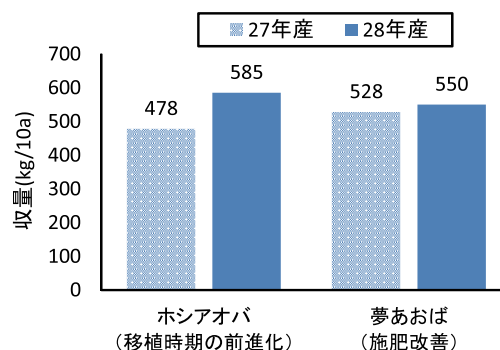


図 飼料用米の栽培改善結果